

1〇生涯…一生の間。命の限り。死ぬまで。

『莊子』「養生主」に「吾生也有涯、而知也無涯」の事例が見える。杜甫「江畔獨步尋花詩」に「報答春光、知有處、應須美酒送生涯」の句が見える。『漢語大詞典』には「語本《莊子・養生主》“吾生也有涯、而知也無涯”原謂生命有邊際。限度。後指生命、人生」と説明し、陳沈炯の「獨酌謡」の「生涯本漫漫、神理暫超超」の句を引く。『文華秀麗集』「奉和侍中翁主挽歌詞二首」(巨識人)に「夜谿生涯盡、佳城艷骨淪」覺生涯理、人情尚可悲」の句が、「奉和侍中翁主挽歌詞二首」(巨識人)に「生涯每寄孤雲片、世慮都忘一醉中」の句が見える。『田氏家集』「208 題竹林七賢圖」に「生涯每寄孤雲片、世慮都忘一醉中」の句が見える。『菅家文章』「93 奉和兵部侍郎哭舍弟大夫之作」に「魂也歸來何處憑、生涯不遇痛無勝」の句が、<sup>347</sup> 哭田詩伯」に「哭如考妣苦滄茶、長斷生涯燥濕俱」の句が、「272 驚冬」に「不愁官考三年黜、唯歎生涯万事非」の句が、「360 假中書懷詩」に「悠悠皆果報、出入苦生涯」の句が見える。

2〇運命…めぐり合わせ。運。人生に遭遇する吉凶禍福。

『漢語大詞典』には「①迷信指命中注定的生死、貧富和一切遭遇」との説明を載せ、宋鮑照の「擬行路難詩之十八」の句「對酒敘長篇、窮途運命委皇天」を引く。又、張鷟の「游仙窟」の句「嗟運命之迤邐、歎鄉關之眇邈」を引用する。

『菅家文章』「293 端午日賦艾人」に「運命歎逢端午日、追尋恐聽早鷄鳴」の句が見える。